

100年後を変える、時代のうねりを。この日から。



私は、一人ひとりの可能性を信じている。
私たち一人ひとりに、ギフトと使命がある。

恐れや不安、鎧や仮面が溶けたとき
本来のその人が現れる。

自分の根っこの想いにつながり
可能性が100%いかされるとき
純度の高いエネルギーが内から溢れてくる。

それは、パワフルに周りを巻き込み
必然の偶然がどんどん起こり
次々に変化を生んでいく。

奇跡がたくさん起きる未来を
私は見たい。



「コクリ!は奇跡を科学している」
とある人は言った。

100年後から見たときに
ここから歴史が変わったと言われるような
変容を生む条件とプロセスを
10年間研究し、300人の仲間と共に
日本全国で実証実験を続けてきた。

普段だと出会わない多様な存在が肩書きを外し
まるごとの人として根っこでつながる。
そして湧き出るエネルギーに従って
計画的ではなく生成的に共に動いたとき
コ・クリエーションは生まれる。

それは振り返ってみると
「予想だにしない未来が生まれていた」
というものだ。

私たちは今
数世代先の子孫に対して
責任ある転換期に生きている。

異常気象、格差、分断、孤独…
私たちにどんなメッセージを
伝えようとしているのだろう。

私たちは根っこでつながっている。
人も、地域も、企業も、自然も、地球も。

重要な分岐点の今こそ
コ・クリエーションの智慧を
日本中、世界中の人たちと分かち合いたい。

私は、願う力を信じている。
一人ひとりが美しい意図につながったとき
起こるべき未来が出現する。

コ・クリエーションの奇跡が
次々に起きる未来を、みんなとつくりたい。

100年後を変える、時代のうねりを。この日から。

コクリ!創始者

三田 愛

「奇跡を科学する」 コ・クリエーション の研究コミュニティ

コクリ!が一貫して行ってきたのは、コ・クリエーションの条件とプロセスの研究だ。地域に軸足を置きながら、官僚や農家、経営者、大学教授、クリエイター、首長、変革プロフェッショナルとともに、「ここから歴史が変わった」と100年後に言われるような自己変容と地域・社会のシステム変容の智慧を見つけてきた。

その代表例がGI(ジェネレイティブ・インテン

ション:出現する未来の意図)だ。ごろっと時代が変わるようなシステム変容は、まだ言葉にできない「時代のうねり」や「未来の兆し」から生まれると見立てた。これをGIと名づけ、GIと出会い、具現化するプロセスを実証実験した。

約30年にわたり社会起業家を応援してきたETIC代表の宮城治男さんは、「コクリ!は奇跡を科学している」と言っている。

根っこでつながる、 ノーイシューから 始まる 社会運動体

「100年後を変えるコ・クリエーション」という北極星のような目的はあるが、コクリ!に事前に用意された特定のイシュー(課題)はない。では全国各地で継続的に開催されてきたコクリ!の場は何をするのか。まず、このために生まれてきたと感じる「自分の根っこでつながる」。

そして「仲間と根っこでつながる」。官僚と農家に代表されるように、業種や年代を横断し

た社会の縮図とも言える300人がコクリ!の仲間だ。普段出会わない多様な人々が肩書きを外して心から信頼しあい、根っこでつながる。

ノーイシューだが結果的に、コクリ!という土壌から様々な活動や変容が生まれている。『DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー』では「世界でも非常にユニーク」な取り組みとして紹介された。

社会を変える、 ではなく、 自分が変わる

コクリ!が目にしてきた地域や社会の変容は、いつも個人の変容から始まっていた。社会と自分はつながっている。社会や課題を自分と切り離して社会を変えようとするのではなく、まず自

分が変わること、自己変容を徹底してきた。そして、チーム、組織、地域、社会と、さざなみのように変容が広がっていくのだ。予想だにしない未来は、自己変容から始まる。

2011- 地域単位のコ・クリエーション

問い

元気な地域と
そうでない地域、
違いは
なんだろうか?

実践

世代や業種や
職種を越えて深く対話し、
地域全体みんなごとで
未来を創る

- ・地域活性化フレーム開発/地域力診断
- ・地域未来コ・クリエーション(熊本・黒川、熊本・上天草、和歌山・有田)
- ・次世代経営者育成プログラム(全国)

収穫

地域愛に気づき、
仲間と根っこでつながると、
予想だにしない未来が生まれる

次の観点

変化が持続して本物の地域力が
育つには、外部の人ではなく
地域の人が主導する必要がある



地域への想いに組織開発の智慧が加わると、変化のうねりが生まれる

2013- 地域横断のラーニングラボ

問い

地域の人たちが、
自分たちで地域を
変えていく文化を
つくるには?

実践

各地域の「多様な
3人以上のチーム」が
全国から集結。
変革者精神を養う

- ・コクリ!ラボ(2年、毎回3日間、計8回開催)
- ・参加地域/組織:熊本・黒川/南小国、熊本・上天草、宮崎、高知、長野・小布施、長野・塩尻、兵庫・丹波、兵庫・有馬、京都、栃木・那須、富山・氷見、雪国観光圏、沖縄、慶應義塾大学

収穫

本気の仲間があると、
自分の現場で心が折れそうに
なっても続ける勇気がわく

次の観点

地域と都会は分断されている。
誰かが悪いのではなく
「構造」が問題だ



学びと実践を繰り返すと、変化の起こし方・あり方が着実に身につく

2015- 日本横断の共創プラットフォーム

問い

地域の問題と
日本の問題は
つながっている。
どう構造を変えるか?

実践

多種多様な、
普段出会わない人たちも
根っこでつながる
土壌づくり

- ・コクリ!キャンプ(東京、年1回、130人)
- ・コクリ!ローカル(西粟倉、氷見、京都、30~60人)
- ・参加者:全国の首長、官僚、企業経営者、大学教授、社会起業家、地域リーダー、NPO、行政、農林漁業、金融、教育、IT、医療、クリエイターなど

収穫

地域単位では解決できない、
領域を越える多彩な
コラボレーションが生まれる

次の観点

コラボを越えて予想だにしない
未来を生む鍵は、一人ひとりの
自己変容から始まるシステム変容だ



地域の人も都会の人も、農家も官僚も、深く対話すると友達になれる

2016- システム変容のための自己変容コミュニティ

問い

一人ひとりが
ごろっと変わると、
地域も日本も
変わるのでは?

実践

研究チームを強化し、
自己変容の智慧を開発。
地域とともに実証実験する

- ・これまで試せなかった「あやしい・時間がかかる・一時カオスがおこる」を乗り越える手法にチャレンジし、合宿形式で研究(長野・軽井沢、山梨)
- ・経済や教育や自然などシステムをまるごと実感できる地域で、多様な専門性を持つファシリテーターとともに実証実験(島根・海士町、宮崎・新富町)

収穫

自己変容が集動的に起きると、
コ・クリエーションの奇跡が
生まれる

次の観点

これまで仮説だったものが、
地域や国境を越えて応用できる
「智慧」になった



普段気づかない「身体の声」に耳を澄ますことが自己変容の入口



時代の分岐点である今、コクリ!の経験と技術を日本中・世界中で分かち合いたい

コクリ!実践ガイド/実践者コミュニティ/地球中心・生態系全体のコ・クリエーション

自分の 根っこ つながる



一人ひとり、
その人だけの
ギフトを持っている。
湧き上がる想いに従って、
本領を最大限に
発揮したときにこそ、
生まれてきた意味を
感じられるはず。
忙しい日常の中では
「やらねば」サイクルに
振り回されることも
あるけど、
「やりたい」サイクルで
生きていこう。
このために
生まれてきた、
と感じる
♪根っこの想い♪は
なんですか？

仲間と 根っこ つながる



肩書きを外した
「まるごとの人」として
相手とつながろう。
今の仕事や
立場だけでなく、
その人の根っこの想いや、
その人もまだ見えていない
可能性を見いだそう。
その人の痛みや願いを
自分のこととして
感じるほどの
自他非分離になったとき、
本物の
コ・クリエーションが起こる。
その人の、
エネルギーが湧き出る
♪想いの源泉♪って
なんだろう？



三田 愛 (愛ちゃん)

コクリ!創始者・ディレクター、リクルート ジャらんリサーチセンター研究員、英治出版フェロー。人・組織・地域・自然などあらゆる存在が本来持つギフト/可能性を最大限発揮することで、奇跡のような未来が出現するプロセスを研究・実践。経済産業省や国土交通省の委員を歴任。米國CTI認定プロフェッショナル・コーチ (CPCO)。特技は30年以上続ける書道 (10段)。

コクリ!最初の「予想だにしない未来」

コクリ!の10年を振り返ると、最初に訪れた「予想だにしない未来」が2012年の黒川温泉での実証実験でした。私がコ・クリエイションの可能性を確信したのも、一生探究すると決心したのも、黒川で予想だにしない未来に立ち会えたから。そんなコクリ!の原点物語をお話します。

日本の地域の「イノベーションのジレンマ」

「元気な地域とそうでない地域、違いはなんだろう?」当時私は全国の元気な地域を一つひとつ訪ね、地域の強みや課題、組織や年代の認識のずれを可視化するフレームワークを開発し、「地域力診断」を実施していました。

その対象地域の一つだった熊本県阿蘇郡南小国町の黒川温泉は、30年前は地図にも載らない寂れたまちでしたが、当時の旅館青年部(今の親世代)の取り組み

で年間120万人が訪れる人気温泉地に。しかしその後10年連続で来訪者が減少。

そして地域力診断によって、世代間の認識のずれが浮き彫りになりました。成功体験が強い親世代と比べて若手世代の危機感が明らかに強い。しかし、親世

代で起きていたことは、成功した地域や組織に共通するジレンマだったのかもしれない。

「あーちゃん、これは山が動くばい!」

さて、黒川で実証実験を行うきっかけとなったのは、観光旅館協同組合で当時青年部の副部長だった北里有紀さん(ゆうき)の言葉でした。世代間の認識のずれと、若手世代の危機感が強いという地域力診断の結果を伝えると、ゆうきから「若手は想いはある。でもやり方がわからない。手伝ってほしい」と相談されました。

そして、私が構想していた地域コ・クリエイション(世代や業種、職種や組織のしがらみを越えて対等に関わりながら、地域全体「みんなごと」でイノベーションを生み出す)を語ると、ゆうきはこう言ったのです。「あーちゃん(愛ちゃん)、これは山が動くばい!」



左:北里有紀、右:三田愛

代に対して、若手世代は意見を言えない、言っても潰される、そう感じていました。

経営学者のクレイトン・クリステンセン氏は、著書『イノベーションのジレンマ』で、過去の成功体験が企業の変革の足かせになると説いています。当時の

世代、業種、地域を越える

これまでの黒川は、まちの未来を話す場で親世代ばかりが発言し、集まるのも旅館関係者ばかり。そこで世代と業種を越えて、誰もが対等に心をひらいて参加できる場をつくりました。象徴的だったのが、「東京の大企業に騙されとる」と私のことを怪しんでいた親世代の一人が、その場で開催した即興劇で「変なおじさん」役を演じてくれたことです。

数回にわたる対話の場を通して、普段の会議では見えない一人ひとりの多面性がお互いわかり、若手も思いきりアイデアを言えるように。そうした想いや本気に触れることで、若手に対する親世代の見る目が変わり、次第に信頼を得て、要職に若手が抜擢されていきました。

それだけではありません。「まさか黒川温泉の未来に自分が物申していいと思っていなかった」農家や役場の人たちが旅館の人たちと腹を割って語り合う場ができたことで、誰もが他業種の課題を自分ごとで捉え、まち全体のつな

がりを実感でき、業種を越えた活動が生まれていったのです。

世代と業種の次は地域を越えて、黒川と都会をつないでいきました。都会に生まれ育った人は、実は第二の故郷を求めている。この仮説をもとに、黒川を訪れる人が黒川を第二の故郷と思う「第二町民」としての関係づくりを目指しました。

法被を着てイベントの裏方を手伝う。地元の人で朝まで飲み明かす。そうした取り組みを経て、もてなす人とお客様という「上下の関係」から、ともに黒川の未来を創る「横の関係」に変わり、数百人の第二町民が生まれたのです。

「根っこでつながる」 と奇跡が起きる

9か月の取り組みを経て、予想だにしない未来が生まれました。まず、10年連続減少の来訪者数がV字回復し、3年連続増加。そして、こうした活動が継続・自走する基盤として30~40代の超業種まちづくりNPOが誕生。

そのNPOのメンバーの一人が町長選

出馬を宣言。16年間60代の方が町長で、40代の町長は無理という大方の予想に反し、投票率85%のなかで二倍の得票数で町長に選出。旅館組合の全理事が30~40代になり、ゆうきが史上最年少・女性初の組合代表理事に就任。それらを親世代が応援するという「まちが一体化する世代交代」が起きたのです。

さらに、まちの皆さんが都会のクリエイターと協力し、黒川の伝統や美しさを世界に届ける映像作品「KUROKAWA WONDERLAND」を制作。ミラノやロサンゼルスやインドネシアで15以上のアワードを受賞し、消滅の危機にあった南小国の伝統文化「吉原岩戸神楽」が次世代に継承されました。

あのとき黒川で何が起きていたのだろうか?と振り返ると、最も大切だったのは「根っこでつながる」ことだと思います。世代や業種や地域を越えて、一人ひとりが「まるごとの人」としてつながる。縁遠かった人の痛みや願いが自分ごととして感じる深い関係になる。「根っこでつながる」はコ・クリエイションの鉄則として受け継がれています。

黒川の未来を考える即興劇での一幕



第二町民のみなさん。法被(はっぴ)は黒川の「仲間の証明」



旅館・役場・農家・蕎麦屋・議員・製材所・福祉・ITの超業種NPO



地域や社会が「ごろっと」変わるには？

地域研究から始まったコクリ!は2015年、大きく舵を切る。日本各地の首長や大学教授、企業経営者、官僚、農家、社会起業家、NPO等が一堂に会する「コクリ!キャンプ」を開催。普段出会わない人たちがただ講義を聞いたり名刺交換するのではなく、互いの願いや痛みを感じて根っこで深くつながる場を通じて、境界を越えた数々のプロジェクトが生み出された。

そうしたコラボレーションはいくつかの変化や成果をもたらした。だがコクリ!の願いは「100年後を変える時代のうねりをコ・クリエーションする」こと。どうすれば地域や社会のシステム（構造）はごろっと変わるのか？

多様なリーダーやプロフェッショナル

の実証実験を経て2017年、コクリ!は「ジェネレイティブ・インテンション（GI）」という新概念を打ち立てた。

GIとは、まだ言葉にできない時代のうねりや未来の兆し

多様な参加者が対話や探究を行うことでGIとつながり、具現化できる。GIこそが100年後の未来を創り出すキーファクターなのではないか。

よくよく観察すると、時代ごとに転換点となるキーワードやコンセプトが誕生している。シェアリング・エコノミー、ブロックチェーン、ロングテール……。時代や世界に受け入れられたキーワードはきっと何かしらGIとつながっている。ではこれらに続く、そして世界の未来を照らす

コンセプトを生み出し、実装するには？
コクリ!研究チームは、GIとつながる入口は「大きな歴史の流れ」と「システムの痛みや願い」を感じるのだと仮説を立てた。

痛みの奥には愛がある

仏教哲学者で社会活動家のジョアンナ・メイシーは、愛しているからこそ痛みを感じる、痛みは大転換を起こすクリエイティビティだと言っている。そして痛みには4つの種類がある。

- 1 恐れが語られる時、私たちが聞いているのは、それを乗り越えようとする**勇気**
- 2 怒りが語られる時、私たちが耳にしているのは、正義を求める**情熱**
- 3 悲しみが語られる時、その奥底にあるのは**愛**
- 4 無力感が語られる時、そこに現れているのは**可能性**

過去からの流れを見つめることで見える道、未来に耳を澄ますことで聞こえてくる声

立ち止まって歴史を見ていくと、時代を彩るキーワードを各分野で見つけることができる。それは過去から脈々と続くGIとの出会いの足跡だ。人々はそのたびに見事に名づけし、仕組みとして実装してきた。時代の感覚をより大きく伸ばし、分野を広く横断して眺めてみると、その先にうっすらと今の時代が浮かんでくる。

同時に、過去にはこだわらず、純粹に私たちの創り出した未来を夢見てみる。未来からの声に耳を澄ますのだ。

数世代先に残したいもの、手放したいもの、変えたいものは何だろう？

まだ言葉にはできないが確かに感じる、100年後から見てここから歴史が変わったと言われる概念が今ここで生まれるとしたら、私たちはそれを何と名づけるだろう？

システム全体の痛みや願いとつながる

自然や生物、組織やコミュニティなど、社会を構成する要素の有機的つながり（システム）を感じる。自分自身もそこから切り離さずシステムの中に存在し、影響を与え合っていることを感じる。複雑な身体や心を持つ自分というシステム、チームや組織というシステム、そして世界や地球というシステム。それらすべてがつながり、影響し合っている。

自分を入力口にシステムとつながっていく。私自身が世界を感じるセンサーとなりこの世界の痛みや願いを感じる入口になる。みんなが根っこでつながり、深く対話することで集合的無意識とつながり、集合的ひらめきを生み出していくのだ。

今の社会が潜在的に抱えている痛み、そしてその奥にある、多くの人々が実は望んでいる集合的な願いとは、一体どんなものだろうか？



圧倒的に当事者性の高いアイデア

新しい商品やサービス、時代を動かすコンセプトやムーブメントを生み出す手法はいつの時代も求められている。例えば、未来から逆算して現在の機会を発見するシナリオプランニング、顧客を観察することで潜在的ニーズを見つけるデザイン思考などだ。しかし、新しいことを始める現場では、膨大なアイデアが出たにもかかわらず

ならず多くが実行されないという現象が散見される。発想と実行に溝がある。

一方でコクリ!が開発したGIプロセス（GIからはじめるイノベーション手法）の特徴のひとつが、「圧倒的に当事者性の高い」アイデアが生まれることだ。GIプロセスから生まれてくるアイデア（GI）にはすべて、個人の強烈な痛みや願いが宿っている。大きな時代の流れ、システムの痛みや願いとつながるといった体験によって、GIとつながった本人

と共感する仲間のなかで強い覚悟と、なんとしてもそれを実現したいというコミットメントが育っていくのである。

そのため、GIプロセスを実践するコクリ!の場では、イシューや成果を設定しないが、結果的に多くの予想だにしないクリエイションが生まれている。では、GIはどうやって発見するのか？ 発見したGIをどうやってクリエイションするのか？ その方法については、下記のGIプロセス図とともに解説したい。

PART 1

3つの未分化によるシステムセンシング

GIプロセスは、3つの未分化（自分の心の中の境界を取り外すこと）から始まる。まず、忙しい日常から離

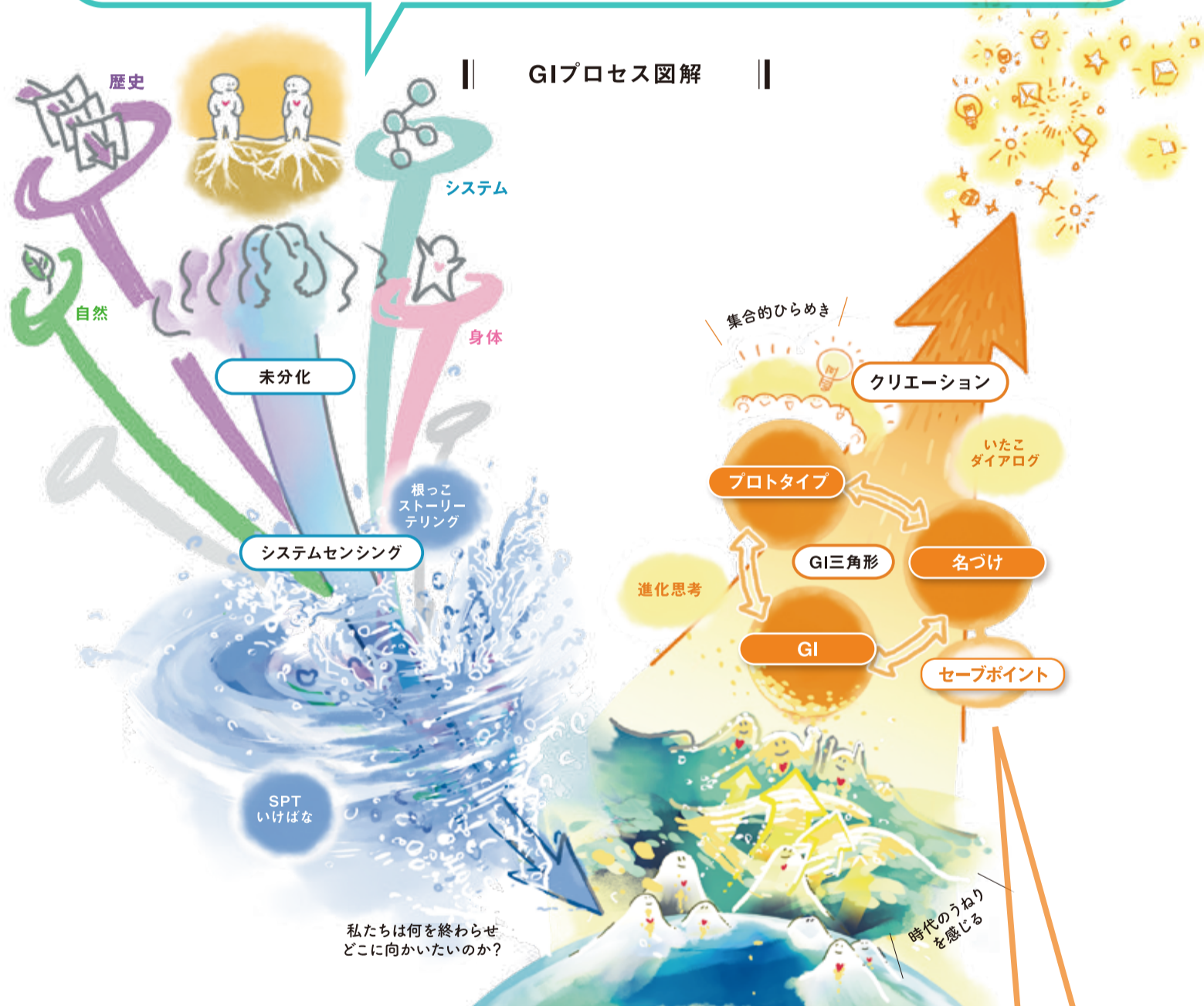
れて肩書きを外し内省することで、本来のまるごとの自分に気づき、自分自身の根っこにつながる（①個人の未分化）。次に対話や身体的な関わりを通じて、あなたがわたしでわたしがあなたの状態（自他非分離）となり、仲間と根っこでつながる

（②仲間との未分化）。

そうした未分化の関係性の中で社会や地球の痛み、本当にありたい未来像を4つの方法で感じる（③システムとの未分化）。①歴史：歴史の大きな流れに身を浸し、時代が流れる方向性を感じる。②自然：思

考や分析を手放し、大いなる自然に没入することで地球の痛みや願いを感じる。③身体：腹を決める、肝が据わると言われるように、深い叡智が宿る身体の挙動を感じる。④システム：複雑な社会システムを複雑なままに見つめ感じる。

GIプロセス図解



私たちは何を終わらせどこに向かいたいのか？

時代とうねりを感じる

PART 2

GI三角形によるクリエイション

自分と仲間の根っこにある純粋な願いと、世界や地球が抱える痛みが合わさると、エネルギーと使命感と愛に満ちたGIが現れる。そのGIを基点に、奇跡のような予想だにしない未来をクリエイションする鍵となるのが「GI三角形」だ。

コクリ!が願っているのは100年後を変える時代のうねりを生むこと。そのうねりは本人と仲間の試行錯誤から生まれる。そのため、単発の場で成果を出すことに固執せず、セーブポイントとしてGIを保管し、日常や次の場でGIに立ち戻れることを大切にしている。

GI

「まだ言葉にできない時代のうねりや未来の兆し」をGIと呼び、GIは大きな歴史の流れ、システムの痛みや願いとつながることで出現する。GI・名づけ・プロトタイプの「GI三角形」に順序はない。名づけやプロトタイプの後にGIに戻ると、GIをより明確に捉えられる。再び名づけやプロトタイプを進めるとさらに的確なネーミング、実効的なプロトタイプを生み出せるかもしれない。そのGI三角形の往復から集合的ひらめきは生まれる。

しかし、誰も見たことがない新しいアイデアは壊れやすく、実行しづらい。そこでコクリ!では「いたこダイアログ」という、相手になりきり、相手の中に生まれ始めている未来

の兆しに耳を澄まして寄り添う対話の手法を使うことで、繊細なプロセスを支援している。

名づけ

GIはまず感覚や情景といった非言語の状態で湧き上がってくる。その感覚はその場でどれだけ伝えても、時間が経つとエネルギーが失われてしまう。そこで、言葉にならない感覚を、新鮮なまま、仲間の力を借りながらその場で名づける。

セーブポイント

名づけは重要だが、意味や枠を固定化しきれない。GIとは感覚的なものであり、別の時間や場所で掘り下

げることで新たな発見がありうる。そのため、最終的なもの・完成版として名づけをするのではなく、GIと出合った感覚にいつでも戻れるための「セーブポイント」として名づける。

プロトタイプ

名前をつけて、さらにプロトタイプ（試作）をつくることで、GIの実効性や拡張性が明らかになり、感覚的だったものが次第に現実化する。コクリ!ではプロトタイプにおいて、日本古来の華道と海外で生まれたシステムセンシングの手法を組み合わせた「SPT いけばな」というワークを取り入れたことがある。「美」という観点からシステムのバラバラな要素が統合され、ありたい姿と次のアクションが具現化される。



Kenshu Kamura

GIとつながり、コ・クリエイションが生まれる場づくり

嘉村 賢州 (けんしゅう)

コクリ!ディレクター、場づくりの専門集団NPO法人場とつながりラボhome's vi代表理事、東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授。場づくりの経験は15年以上、まちづくりや教育、企業の組織開発やイノベーション支援など多岐にわたる。2015年に組織論の新概念「ティール組織」に出会い、実践型の学びのコミュニティ「オグラボ (ORG LAB)」を設立。

まだ言葉にできない時代のうねりや未来の兆しである「GI」という新概念を打ち立てたコクリ!は、GIプロセスを実践する「コクリ!海士」を開催しました。場所は人口約2400人の島根県隠岐郡の離島・海士町。若者が移住してくる島、財政破綻の危機を乗り越えた島、廃校寸前だった高校が再生した島として広く知られています。

そんな海士町が第二の変容期に入り、リーダーたちの引退が迫り、まさに「まちの未来を描く」タイミングで行われたコクリ!海士 (2017年と2018年に開催) は、GIとつながりコ・クリエイションが生まれる場づくりの智慧が凝縮されていました。

イニシャルプロセス 6つの手順

私はこれまで大小合わせて500以上の場づくりに関わってきましたが、コクリ!が際立っているのは導入部分 (イニシャルプロセス) のこだわりです。最初に良い土壌や植生環境をつくれれば自然の力

で豊かな農作物が育つという「自然農」の考え方を取り入れており、次の6つの手順を丹念に行くと、コ・クリエイションが生まれやすい関係性が育っていきます。

① 主催者が自らのあり方を整える：主催者が率先して想いや弱さをさらけ出すと、参加者もリスクをとってオープンになる。



コクリ!海士2017に集まった60人

② コアチームをつくる：主催者の想いや意図に深く共感する、職業・肩書き・年代・地域が異なる同志がいると、アイデアや観点が多様になる。

③ 招待する人を決める：変化にオープンで、影響力がある、システムの代表者がバランスよく集まると、インパクトのあ

る新結合が起きやすい。

④ 一人ひとりに会いに行く：なぜその場を開き、なぜ参加してもらいたいかを想いを込めて語ると、参加者の主体性が高まる。

⑤ 場を整える：自然に囲まれ、天井が高く居心地の良い場所を選ぶと、場のエネルギーが味方してくれる。

⑥ ホームチームの組み合わせを決める：地域や職種、性別、年代、興味、性格などを加味しながら6人程度のチーム編成に想像力を駆使すると、心理的安全性・根っこでつながる関係・共創が生まれやすくなる。

コクリ!海士は、大学教授や官僚や社会起業家などの日本というシステムを象徴する30人と、役場職員や教員や地元の経営者などの海士町を象徴する30人が集まり、参加者は職種も価値観も多種多様。しかしコアチームによる数十時間に及ぶ「ホームチーム編成 (海士町メンバー3人、来島メンバー3人)」や「参加者への対面でのお願い」などによって当日の場が始まる前にコ・クリエイションが

生まれる土壌が育まれていました。

GIプロセスを3日間で実践する

イニシャルプロセスの次はGIプロセスの実践です。次のワークを行いながら、自分自身の根っこ、仲間の根っこ、そして「大きな歴史の流れ」と「システムの痛みや願い」とつながることでGIを見出し、コ・クリエイションを生み出していきます。

コクリ!海士の各ワークは世界中の自己変容・社会変容の智慧を参考にしながら、システムセンシングはToBeings代表の橋本洋二郎さん、クリエイションはSlow Innovation代表の野村恭彦さんとともに研究・開発しました。

●根っこストーリーテリング：一人ひとりが普段の役割を脇に置き、心の奥深くにある痛みや願いと向き合い、自分の根っこ (生まれてきた意味や使命) とつながるストーリーテリングを行う。日常では口にしない「根っこ」の想いを一人ひとりが語り、一人ひとりがそのストーリーに耳を傾けると、個人の未分化と仲間との未分化が起きる。

●SPT (ソーシャル・プレゼンシング・シアター)：自分や自分が属している地域

や業界に起きている解決しにくい複雑な状況を、自分の身体を使って、時にはその状況を構成する要素を参加者に割り当て、身体の形や位置関係で場に再現し、思考を使わず身体感覚をセンサーとしながら即興の動きを生み出す。そのダイナミックな動きを感じ、観察し、終わった後に感覚を共有し合うことで問題解決のヒントを得ようとするアプローチ。例えば「教育」をテーマにした場合、社会起業家・教育委員会・文部科学省・子供など。

思考 (論理) だけでなく「身体 (感覚・直感)」を使うことで、複雑な人間関係やシステムに横たわる、言葉にならない、目に見えない課題が可視化され、見えなかった痛みへの気づき、未来への願い、解決の糸口が浮かび上がってくる。

●7世代ワーク：ネイティブインディアンの智慧から生まれた、7世代先の未来人になりきって現代人と対話する手法。遠い未来と現在の往来により、自分が命のバトンをつないでいること、長い時間の流れの中で生きていること、生命・自然・経済・産業がつながり影響し合っていることに気づく。そして自分や地域を含むシステム全体を感じ取ることで、自分の使命がより明確になる。

●進化思考：コクリ!ディレクターでNOSIGNER代表の太刀川英輔さんが開発した、生物の進化プロセスを応用したイノベーション発想法。進化思考を仲間とともに実践することで集散的ひらめきが生まれ、価値のあるアイデアを見出せる。

自己変容から物語が生まれる

対話とは漢方のようなもので、成果はわかりやすくありません。しかし、英治出版社長の原田英治さんはコクリ!海士をきっかけに親子島留学を決め、関東から海士町に一年半移住。遊び心で出た「海士存ジャパン」というアイデアから、海士町の阿部裕志さんが出版社を起業。そして分断になりかねない小さな町の町長選が穏やかに進み、次の世代へバトンが渡されました。

コクリ!海士の最後、長年海士を支えてきた山内町長 (当時) は、島の人達がイキイキと対話する姿を見て涙を流しながら「もうこれで安心だ」と語っていました。「あれが一つのターニングポイントだったよね」と100年後に語られるような新たな物語が参加した一人ひとりの中に生まれたと私は確信しています。

海士町メンバーの実家で根っこストーリーテリング

SPTの一コマ。状況は有機的にどんどん変わる

海士町の伝統行事の「綱引き」で、対等に対話する雰囲気をつくる





コ・クリエーションを共に探究してきた仲間たち

co-cree! members who have been exploring co-creation together

赤井 友美 あいかちゃん/一般社団法人子供教育創造機構理事、株式会社4smiles代表取締役	秋元 祥治 ショウジ/岡崎ビジネスサポートセンター・OKa-Bizセンター長(愛知県)、NPO法人G-net理事・創業者(岐阜市)	浅井 俊子 としさん/社団法人Impact Hub Kyoto代表理事(京都府京都市)
朝比奈 一郎 ひなさん/青山社中株式会社筆頭代表CEO、内閣府クールジャパン地域プロデューサー、総務省地域創造アドバイザー	麻生 要一 よーちゃん/株式会社アルファドライブ代表取締役社長兼CEO、株式会社グノムクリニック代表取締役	安宅 和人 あたっく/慶應義塾大環境情報学部教授(神奈川県横浜)、ヤフー株式会社チーフストラテジーオフィサー(CSO)
安部 敏樹 としき/一般社団法人リデラバ代表理事、株式会社Ridlover代表取締役	阿部 裕志 べっく/株式会社風と土と代表取締役(島根県隠岐郡海士町)	荒井 優 ゆたか/札幌新南高校校長(北海道札幌市)
井口 元 ゲン/株式会社みなの家代表取締役(兵庫県丹波市)	池本 修悟 しゅうごさん/首都圏若者サポートネットワーク事務局長、社会創発塾代表理事	磯辺 陽介 べっさん/東急株式会社都市創造本部課長補佐、Cift
市村 良三 良ちゃん/小布施町長(長野県上高井郡)	井上 英之 いのさん/INNO-Lab International共同代表、慶應義塾大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授	井上 有紀 ゆきちゃん/INNO-Lab International共同代表(長野県北佐久郡軽井沢町)
猪熊 真理子 真理ちゃん/株式会社OMOYA代表取締役社長、一般社団法人At Will Work理事	入山 章栄 あっきー/早稲田大学院経営管理研究科(ビジネススクール)教授	岩井 睦雄 がんちゃん/JT取締役
岩本 悠 ゆうくん・ゆうさん/島根県教育魅力化特命官、地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表(島根県松江市)	上田 壮一 そうちゃん/一般社団法人Think the Earth理事・プロデューサー、多摩美術大学客員教授	丑田 俊輔 ウッシー/ハバク株式会社代表取締役(秋田県南秋田郡五城目町)
内田 友紀 ゆっきー/株式会社リ・パブリック共同代表、XSCHOOLプログラムディレクター	兎洞 武揚 うーちゃん/株式会社博報堂 博報堂ブランドデザイン副代表、bemo!(マルチステークホルダー価値創造プログラム)リーダー	枝廣 淳子 淳子さん/大学院大学至善館教授、幸せ経済社会研究所所長
大江 亜希子 あきちゃん/株式会社ひらり代表取締役、一般社団法人ワールドシフトネットワークジャパンコミュニケーター	大島 正幸 シマ/株式会社よび代表取締役(岡山県英田郡西栗倉村)、風景になるものづくりの伝道師	大島 奈緒子 なおちゃん/株式会社よび建築設計室室長(岡山県英田郡西栗倉村)
太田 直樹 なおきさん/株式会社New Stories代表、前総務大臣補佐官、コクリディレクター(総務)	大宮 透 とおるちゃん/小布施町主任研究員(長野県上高井郡)	大本 綾 綾さん/株式会社レア共同代表・クリエイティブプロセスデザイナー
岡部 有美子 おかべちゃん/株式会社風と土と(島根県隠岐郡海士町)、コミュニティガーデンング代表(島根県出雲市)	岡村 充泰 ミック/株式会社ウエダ本社代表取締役社長(京都府京都市)、京都流議定書イベント実行委員長	岡本 啓二 けいじ/一般社団法人こゆ地域づくり推進機構(こゆ財団)執行理事、新宮町役場総務課長補佐(宮城県児湯郡)
小澤 いぶき いぶちゃん/認定NPO法人PIECES代表理事、東京大学医学系研究科客員研究員、児童精神科医、精神科専門医	小島 希世子 おじま/株式会社えと菜園代表取締役、NPO農スクール代表(神奈川県横浜)	小田 理一郎 リッチー/有限会社チェンジエージェント代表取締役、環境NGOジャパン・フォー・サステイナビリティゼネラルマネージャー
越智 かをり おちこさん/mistletoe株式会社	小野田 峻 タカシくん/小野田高砂法律事務所代表弁護士、social hive HONGO運営	小野寺 愛 あいちゃん/一般社団法人「そっか」共同代表(神奈川県厚木市)、日本スローフード協会理事、Edible Schoolyard Japanアンバサダー
小野村 學 がくちゃん/Quipperグローバル人事マネージャー	加賀谷 順一 カガヤン/IESEビジネススクールアジア統括マネージングディレクター	片岡 修平 ぺいちゃん/内閣府官民経済再生総合事務局参事官補佐、霞が関アボ(若手勉強会)幹事
鎌田 恭幸 かまちちゃん/鎌倉投信株式会社代表取締役社長(神奈川県鎌倉市)	神谷 未生 みおさん、ぬーさん/一般社団法人おらが大植夢広場代表理事(若手県上閉伊郡大槌町)、英語コーチ	嘉村 賢州 けんしゅう/東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授、NPO法人場とつながりラボhome's vi代表理事(京都市)
亀井 善太郎 ぜんちゃん/PHP総研首席研究員、立教大学院21世紀社会デザイン研究科特任教授、特定NPO法人アジア教育友好協会理事	川路 武 かわちゃん/日本橋フレンド、三井不動産	菊池 昌枝 まあちゃん、菊ちゃん/株式会社星野リゾート・アセットマネジメント財務管理本部IRディレクター、地方で文化的に楽しく暮らす研究者
北里 有紀 ゆうきちゃん/黒川温泉観光旅館協同組合代表理事、有限会社御客屋旅館代表取締役(熊本県阿蘇郡小国町)	北嶋 緒里恵 オリエ/株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター調査・開発グループマネージャー	熊谷 玄 げん/株式会社スタジオグンマガイ代表(横浜市)、愛知県立芸術大学非常勤講師(愛知県長久手市)、東京電機大学非常勤講師
黒木 潤子 じゅんじゅん、J/株式会社インター・ビュー代表	高 亜希 こうちゃん、あきちゃん/認定NPO法人ノベル代表理事、一般社団法人Collective for Children共同代表	幸田 泰尚 こーちゃん/株式会社クラウドリアルティExecutive Officer、じゃらんリサーチセンター客員研究員
後藤 拓也 たく/人材・組織開発コンサルタント、講師・ファシリテーター(神奈川県鎌倉市)	小沼 大地 ダイチ/NPO法人コソスフォーラム共同創業者・代表理事、新公益連盟理事	小松 洋介 こまつちゃん/特定非営利活動法人アスヘノキボウ代表理事(宮城県牡鹿郡大川町)
小宮山利恵子 コミ/スタディサプリ教育AI研究所所長、東京学芸大学大学院准教授	近藤 清太郎 せいちゃん/財務省(現・農林水産省)出向)	齋藤 潤一 じゅん/一般社団法人こゆ地域づくり推進機構(こゆ財団)代表理事(宮城県児湯郡新富町)、地域プロデューサー
坂倉 杏介 きょうのすけ/東京都市大学都市生活学部准教授、三田の家LLP代表	桜井 昌季 かんちゃん/株式会社桜井甘精堂代表取締役、小布施町文化観光協会会長(長野県上高井郡)	佐々木 裕子 ささきむ/株式会社チェンジング代表取締役社長、株式会社リクス代表
指出 一正 さっしー/月刊「ソトコ」編集長	佐竹 正範 さたけ/美瑛町政策調整課課長補佐(北海道上川郡)、ふるさと名品オブ・ザ・イヤー実行委員会幹事長	佐藤 大 だい/脚本家
佐野 和之 さのち/かえつ有明中学高等学校副教頭	沢登 次彦 のぼり/株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター センター長	三田 愛 あいちゃん/コクリ!創始者・ディレクター、株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター研究員、英治出版フェロー
塩塚 耕平 しおさん/一般社団法人ハウスホクサイ管理人(長野県上高井郡小布施町)	塩見 直紀 ナオ/半農半X研究所代表(京都府綾部市)、総務省地域創造アドバイザー	島崎 湖 いずみ/株式会社ウエイクアップ、CRR Global Japan
島田 由香 Yuka/ユニバーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社取締役人事総務本部長	島田 昭彦 しまっち/京おもてなし大使、株式会社クリップ代表(京都府京都市)	清水 唯一朗 ゆいろう/慶應義塾大学SFC教授(日本政治、オーラル・ヒストリー)(神奈川県横浜)
霜山 元 げん/株式会社ヒューマンバリュー研究員、東京大学運動会ヨット部監督	白井 智子 ともこさん/特定非営利活動法人トイボックス代表理事(大阪府大阪市)	城田 郁子 いくこさん/財務省広報室長
杉浦 元 すぎさん/株式会社エリオス代表取締役、ソーシャルベンチャーカリスト	鈴木 賢治 けんちゃん/株式会社47PLANNING代表取締役社長、株式会社夜明け市場代表取締役社長(福島県いわき市)	鈴木 由香里 ゆかり/トヨタ自動車株式会社未来プロジェクト室インキュベーションGグループ長
鈴木 寛 すずかん/東京大学教授、慶應義塾大学教授、前文部科学大臣補佐官	鈴木 菜央 なお/NPOグリーンズ代表、green.jp編集長	須藤 順 じゅん/高知大学地域協働学部講師(高知県高知市)、エイチタス株式会社取締役
関 治之 ハル/一般社団法人コード・フォー・ジャパン代表理事、株式会社HackCamp代表取締役社長	高砂 樹史 たかさん/茅野市観光まちづくり推進室室長(長野県)、長野県DMOアドバイザー	高野 達成 たつ/英治出版株式会社取締役編集長
高橋 邦男 くにおさん/一般社団法人こゆ地域づくり推進機構(こゆ財団)事務局長(宮城県児湯郡新富町)	高橋 久美子 くみ/経済産業省通商政策局総務課課長補佐	高橋 亜美 あみさん/アフターケア相談所ゆずりは所長
高橋 周二 しゅうじ/南小国町長(熊本県阿蘇郡)	高岡 邦男 たかさん/株式会社ヒューマンバリュー会長、知平塾主宰	武井 浩三 たくちゃん・タケイチちゃん/社会活動家、株式会社eumo CJO
竹村 詠美 えみ/一般社団法人FutureEdu代表理事	但馬 武 タジ/株式会社fascinate代表取締役社長(神奈川県横浜)	太刀川 英輔 えいすけ/NOSIGNER代表(神奈川県横浜)、慶應義塾大学院SDM特別招聘准教授
多名部 重則 べっちー/神戸市医療・新産業本部新産業創造担当課長(兵庫県)	田端 将伸 たばちゃん/横瀬町役場まち経営課政策担当(埼玉県秩父郡)	田村 篤史 たむさん/株式会社ツナグム代表取締役、京都移住計画代表(京都府京都市)
田村 祥宏 ヤス/株式会社イグジットフィルム代表取締役、フィルムディレクター	土屋 恵子 けいちゃん/アデコ株式会社取締役ピープルバリュー本部本部長、モナド代表	徳重 浩介 とくちゃん/株式会社リクルートライフスタイル執行役員飲食領域担当
利根川 裕太 とねさん/特定非営利活動法人みんなのコード代表理事	富田 能成 のーせー/横瀬町長(埼玉県秩父郡)	冨塚 優 とみー/株式会社リクルートホールディングス執行役員
友吉 鶴心 びわっち/薩摩琵琶奏者、日本文化芸術探究	豊田 庄吾 しょうご/隠岐国学習センター センター長(島根県隠岐郡海士町)	中井 徳太郎 とくさん/環境省総合環境政策統括官
長井 伸晃 ノブ/神戸市企画調整局つなぐ課特別係長(兵庫県)、078実行委員(2017年度)	中川 覚敬 なかちゃん/文部科学省初等中等教育局財務課専門官	中土井 僚 りゅうさん/オーセンティブワークス株式会社代表取締役社長、株式会社ミライバディ代表
長友 まさ美 まあちゃん/サンワード・ラボ株式会社代表取締役、宮崎でげてけ通信会長(宮城県宮崎市)	中村 彰二郎 しょうちゃん/アクセントア株式会社福島イノベーションセンター センター長(福島県会津若松市)	成澤 俊輔 なるっち/NPO法人FDA理事長(神奈川県川崎市)
成宮 崇史 ノブ/認定NPO法人底上げ理事(宮城県気仙沼市)、気仙沼まち大学運営協議会チーフコーディネーター	西田 司 西田/株式会社オンデザインパートナーズ代表(神奈川県横浜)、建築家	西村 勇哉 ゆーや/NPO法人ミラック代表理事(京都府京都市)、理化学研究所未来戦略室ソーシャルデザイナー
野口 晃菜 あきな、あっきーな/株式会社LITALICO執行役員、筑波大学大学院博士課程在籍(茨城県つくば市)	信岡 良亮 のぶくん/株式会社風と土と取締役(島根県隠岐郡海士町)、株式会社アスノオ代表取締役	野村 恭彦 TAKAさん/Slow Innovation株式会社代表取締役(渋谷区、京都市)、金沢工業大学KIT虎ノ門大学院教授
則枝 千絵 Chie/舞踊団バリエージ主宰、舞踊家、振付家	葩島 一匡 ハイジマン/合同会社Amahoro役員、鹿嶋バラダイス企画室(茨城県鹿嶋市)	橋本 洋二郎 洋二郎/株式会社ToBeings代表取締役社長、コクリ!ディレクター(研究)
濱田 織人 おりと、オリティ/音楽プロデューサー、ベーンスト、クリエイティブディレクター	濱中 香理 かおりさん/海士町役場総務課主査 地域×教育魅力化特命担当(島根県隠岐郡)	濱松 誠 マック/ONE JAPAN共同発起人・共同代表
原田 英治 えーじ/英治出版株式会社代表取締役、海士町親子島留学生(島根県隠岐郡)	樋浦 直樹 ひうりー/READYFOR株式会社代表取締役COO	福本 理恵 りえちゃん/東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野 中堅研究室特任助教
藤井 靖史 やっさん/会津大学客員准教授、CODE for AIZU Founder、株式会社AIYUMU取締役(福島県津若松市)	藤井 薫 るーさん/株式会社リクルートホールディングス リクルート経営コンピタンス研究所エバンジェリスト、リクナビNEXT編集長	藤井 麗美 れいちゃん、東京アーバン・マルチャー アクティビスト、くふとまほう ライフコーチ、まほうつかい(神奈川県鎌倉市)
藤沢 烈 れっちちゃん/一般社団法人RCF代表理事、新公益連盟事務局長	藤代 健介 ケンちゃん/株式会社prsm代表取締役、Cift発起人	藤村 聡 フジム/ Mistletoe Japan 合同会社、一般社団法人Living Anywhere
藤村 隆 むらたか/NPO法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京代表理事	藤原 正賢 ずく/株式会社BAZUKURI代表、株式会社Huuuu(長野県長野市)	船橋 力 ちーく/文部科学省トピタテ!留学JAPANプロジェクトディレクター、公益社団法人MORIUMIUS理事(宮城県石巻市)
本川 祐治郎 “海の男” ゆうじろう/元氷見市長(富山県)	本多 喜久雄 きくお/カマコン(鎌倉ではじまった地域活動)立ち上げメンバー、株式会社グローバルコーチング代表取締役、御場家	前野 陸司 たかし/慶應義塾大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科教授
町塚 俊介 まっちー/株式会社ライフノート代表取締役(神奈川県鎌倉市)、Workleファウンダー	松井 朋子 まついちゃん/京都市まちづくりアドバイザー、美しい祖國祭をつくる会代表(京都府京都市)	松浦 由佳 ゆかちゃん/白光真実会会長代理(静岡県富士宮市)、五井平和財団ネットワーク担当
松浦 貴昌 まつっん/NPO法人プラストビート創業者・理事、ギフト経済ラボ発起人	三浦 英雄 ヒデ/ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社執行役員、「越境リーダーシップ」プロジェクト ジェネレーター	三浦 卓也 みうたく/株式会社フェリシモFBIプロジェクトリーダー(兵庫県神戸市)、北海道厚真町地域おこし企業人(北海道厚真郡)
水田 千恵 ちっちゃん/ヤフー株式会社CTO室Developer Relations	水谷 智之 みずちゃん/一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事(島根県松江市)	水野 紗也 さやちゃん/環境省大臣官房政策評価係係長
宮城 治男 はるおう/NPO法人ETIC代表理事	三宅 紘一郎 紘ちゃん/ナオライ株式会社代表取締役(広島県呉市)	宮越 浩子 ひろちゃん/i.schoolプロジェクトマネージャー、立教大学経済学部特任教授
宮本 賢一郎 けんいちろうさん/株式会社リクルートライフスタイル 執行役員 旅行領域担当	茂木 崇史 もて、もっちー/株式会社BOLBOP代表取締役社長・Chief Ecosystem Designer	本木 恵介 けいすけ/NPO法人かものはしプロジェクト理事・事務局長、システムコーチ
本木 時久 もっくん/日本生活協同組合連合会執行役員・生活用品事業本部本部長	森 和成 かず/株式会社ライジング・フィールド代表取締役(長野県北佐久郡軽井沢町)	森本 千賀子 もちり/株式会社morich代表取締役兼All Rounder Agent
森本 佑紀 モリソン/tanQ株式会社Founder	矢崎 和彦 yazacci・ヤザッチ/株式会社フェリシモ代表取締役社長(兵庫県神戸市)	柳川 舞 まいさん/エアアロマジャパン株式会社代表取締役、一般社団法人KANSEI Projects Committee副理事長
柳 明菜 あきな/映像ディレクター、映画監督	柳澤 大輔 やなさん/面白法人カヤック代表取締役CEO(神奈川県鎌倉市)	山川 知則 やまやま/株式会社ヒトカラメディア、渡と風代表
山口 文洋 ぶんよう/株式会社リクルート執行役員 教育・学習事業担当	山崎 崎加 まゆかさん/華道家、ハーバード・ビジネス・レビュー特任編集委員、コクリ!ディレクター(研究・コミュニティ)	山田 桂一郎 Kさん/JTIC、SWISS代表(スイス・ヴェルマツ)、内閣府・国土交通省・農林水産省認定「観光カリスマ」
山田 貴子 やまちゃん/株式会社ワーク・イングリッシュ代表、慶應義塾大学政策・メディア研究科特任助教(神奈川県横浜)	山田 崇 やまちゃん/塩尻市役所地方創生推進課地方創生係長、nanoda代表(長野県)	湯浅 誠 まっちゃん/社会活動家、NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長、東京大学特任教授
油井 元太郎 ジョッキア/公益社団法人MORIUMIUS理事(宮城県石巻市)	吉岡 利代 りよ/ヒューマン・ライツ・ウォッチ上級プログラムオフィサー、Process Work Institute学生	吉澤 司 つかさ/株式会社リクルートライフスタイル執行役員 企画統括室
吉田 雄人 ユウヂー/前横浜市長、Glocal Government Relationz株式会社代表取締役(神奈川県横浜)	脇 雅昭 わっちゃん/神奈川県政策局自治振興部町村課長(神奈川県)、よんなな会発起人	渡邊 泰之 やすー/政策研究大学院大学准教授、総務省政策統括官付高度問題専門官
Bob Stilger ボブ/NewStories代表		

自己変容から システム変容へ

子どもの頃から繰りかえし見る夢がある。

道を歩いていて角を曲がると、目の前の景色はまったく変わって、町の中にいたはずなのに、夜の森が道の向こうに広がっている。手前には街灯がぼんやり光を投げかけている。不安で仕方がない。前に進んでいいのだろうか。

その夢を最初に見てから何十年も経ち、最近、夢の続きを見た。

森の道の先には懐かしい人たちがいて、僕を迎え入れてくれる。還っていく、深いところにつながっている感覚で満たされている。不安はない。

いま、僕はいろんなことを仕掛けている。向き合っている現実には、痛ましいものや困難なことが多い。そして、まだ自分には見えていないものがたくさんあることを知っている。楽観はしていないが、立ちすくんではない。

を見張る域にまで到達した。

自分に話を戻すと、合宿翌年の8月、ちょうど国の仕事を辞めた日に、egakuというプログラムに参加して、アートを通じて自分と向き合う機会をもらった。そこで見えた兆しは、半年後に「起業」という形になった。当時の自分には考えられない選択だった。

設立した会社を核に、いくつかの団体の運営に参加している。そうした場で、どんどん新しい智慧やうねりが生まれてくる。ウェルビーイングの社会実装、シビックテックによる行政のアップデート、そして都市一極集中に対する代替案を目指す「風の谷を創る」プロジェクトなどだ。

プロジェクトの目的や進め方はさまざまだけれど、一貫して自分が大切にしているのは「他非分離」だ。相手が自分の中にすうーっと入ってきて、自分を借りて考えたり、話したりしている不思議な感覚だ。

原点は2017年7月のコクリ！研究合宿。

「わたしはあなたで、あなたはわたし」という体験だ。コクリ！ではストーリーテリングを通じて自分と深くつながり、それを相手とも共有する。山梨での合宿ではさらに深く「自分が繰りかえし

始まりは、軽井沢の合宿で体験した「ドーン」だった。

SPTという寸劇のようなワークで、僕は音をたてて床に足を叩きつけた。身体が勝手に動いた。そして、起業したリーダーの夢や孤独、スタッフの思いや不安、面倒は嫌だと目や耳をふさぐ役人など、自分だけでなく取り巻く人たちの「感覚」が入ってくる。

時は2016年10月1日、ちょうど49歳の誕生日だった。2泊3日のコクリ！の合宿に参加した。直前まで何か理由をつ

「ドーン」と床に足を叩きつけたSPTのワーク
(コクリ！軽井沢研究合宿、2016年10月)



子どもの頃から繰りかえし見る夢について
(コクリ！山梨研究合宿、2017年7月)

見る夢」について共有した。そう、冒頭に書いた夢だ。

自他非分離から、深いレベルで知の新結合が起こり、イノベーションが生まれるというのが、日本が世界に誇る経営学者の野中郁次郎さんのSECI理論の本質だ。野中さんの本は何度も読んでいたけれど、コクリ！のことを入山章栄さん（早稲田大学ビジネススクール教授）に話すと、入山さんから「まさにSECIですよ」と言われた。

山梨の合宿をきっかけに、まずは三田愛さんや嘉村賢州さんといったコクリ！のコアチーム、そして、コクリに誘いそこで生まれた「風の谷を創る」プロジェクトと一緒に立ち上げた安宅和人さん（ヤフーCSO）と非分離な体験が生まれるようになった。

いまは、自分が企業や行政と進めているプロジェクトで、コクリ！の智慧を活用することを試みている。狙いは、深いレベルでのイノベーション、未来の暮ら

太田 直樹（なおきさん）



コクリ！ディレクター、New Stories代表。地域をフィールドにした事業創造をセクター越境で企画・運営。BCGシニア・パートナーを経て15年1月から約3年間総務大臣補佐官として地方創生とICT/IoTの政策を立案・実行。19年10月から総務省政策アドバイザー。

けてキャンセルしようかと考えていた。仕事は忙しいし、合宿で何が得られるかよく見えないし、正直に言えば、自己啓発的なことはあまり信じていない。

それでも参加したのは、コンサルタント時代に身に付けた課題解決の手法の限界を、2015年に政府に入って仕事をすることになってから感じていて、「システム」や「コミュニティ」を探究してみたいと思っていたからだ。

設立から5年経った当時のコクリ！は、この合宿を機に「2.0」と称してシステム変容を探究するコミュニティになっていた。自分はディレクターとして運営の一端を担うことになる。

「コクリ！」は 共創を意味する。

今やいろんな団体やプログラムが「共創」を謳っているけれど、コクリ！の参加者やプログラムの質は、16年秋から18年冬までの3年間で、ビジネスやソーシャル分野でイノベーションを仕掛ける人たちが目

しや社会システムが変わるようなうねりを生み出すことだ。起業してからちょうど2年。未来が少し変わる手応えを、参加してくれている人たちは感じ始めている。

もちろん、壁はいろいろある。答えのない問いを考えることに意味があるのか。自分と向き合うことに意味があるのか。

こうしたフィードバックを参加者からもらう。また、企業の時間軸の短さや、行政で短期的な 이슈が前景化していることを、改めて感じている。

大小さまざまなプロジェクトを20くらい仕掛けているのだけれど、それらをとりまくソーシャルネットワークが着実に同質化し、自分も含めてフィルターの中に閉じ込められようとしている危機感も強まっている。

これからやりたいのは、日常の暮らしや仕事の中で、わたしとあなた、わたしと自然などが境界を越えて、**根っこ**

でつながるような行いの輪を、静かに広げて

いくこと。そこに、深いイノベーションがあることは、すでに分かっている。自分にはない実践をしている人と、学びの共有をしてみたい。そして、これから実践したいという人との出会いも楽しみにしている。

自分の根っことつながり、 仲間と根っこでつながると、 どんな未来が待っているだろう？

1 ティール組織

コクリ!を通じて自分の根っことつながり、1年休むことを決めました。その道程で合ったのが、自分の人生にパラダイムシフトをもたらした「ティール組織」です。(嘉村賢州:東京工業大学リーダーシップ教育院特任准教授、NPO法人場とつながりラボhome's vi代表理事)

2 風の谷を創る

2017年秋のコクリ!の場で、唐突に電撃のように一つの言葉が降りてきました。「風の谷を創る」。それ以来、都市集中型の未来に対するオルタナティブを創ることに相当の時間とエネルギーを注いでいます。(安宅和人:慶應義塾大学教授、ヤフーCSO)

3 鎌倉資本主義

コクリ!には最先端の知恵が詰まっています。そんなコクリ!が鎌倉の建長寺で二度開催され、自分の発信する「鎌倉資本主義」と思想を共にする部分があり、背中を押してもらった気がします。(柳澤大輔:面白法人カヤックCEO)

4 学びの祭典 Learn by Creation

コクリ!最大の発見は、自分の言語化されていない願いと、システム変容に大切な旧パラダイムの痛みを知ったこと。教員や保護者、NPOや行政、学生など2500人が集うLearn by Creationの開催は私にとってまさに予想だにしない未来でした。(竹村詠美:FutureEdu代表理事)

5 WAA× 地域創生

地域 de WAA (Work from Anywhere and Anytime) はコクリ!をきっかけに一気に加速。すべての始まりは宮崎県新富町の地域商社こゆ財団の潤ちゃん(齋藤潤一)と根っこでつながったこと。私にとってコクリ!はイノベーションの源です。(島田由香:ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス取締役)

6 首相官邸で 総理報告

コクリ!で学んだ「仲間の可能性(ギフト)を信じて任せ」ことで、関係人口も移住者も起業家も増え、宮崎県新富町はスマート農業ベンチャーの集積地に。国の地方創生優良事例に選ばれ首相官邸での総理報告が実現しました。(齋藤潤一:こゆ財団代表理事)

7 親子島留学

コクリ!の実践から気づいた、動的な世界でバランスする感覚が、島根県海士町での1年半の親子島留学に導きました。そして今、海士町の出版事業に参画していることに、自分の内面と社会の変化を感じます。(原田英治:英治出版代表取締役)

8 社名変更・ 出版社起業

海士町のために何でもやる地域活性化会社を卒業し、社名を変え、人と人、人と自然の温かい関係性を世界中に増やす事業会社として再出発。そして、コクリ!海士での原田英治さんとの出会いから新たな出版社「海士の風」を立ち上げました。(阿部裕志:風と土と代表取締役)

9 起業家・投資家・ 経営者への 大転換

言語や数字、ロジックを超えた感覚に気づき、大転換が起きました。会社員を辞め、同時多発的に複数の会社を創業し、起業家・投資家・経営者の顔を同時に持ちながら多様な産業で事業をつくる。全部コクリ!なしでは考えられません。(麻生要一:アルファドライブCEO、ゲノムクリニック代表取締役)

10 日本一おかしな 公務員

コクリ!を通じて、究極の「公務員」「公共」とは何か、を常に考えるようになりました。その結果、やりたいことがある人を応援する21個の新規事業を行い、『日本一おかしな公務員』というタイトルで出版することもできました。(山田崇:塩尻市役所地方創生推進課地方創生係長、nanoda代表)

11 農の営みをめぐる 農水官僚の合宿

官僚の出張と言えば単なる視察が多い中、かなり珍しいコクリ!式合宿を農水省課長ほか3名が役場職員や農業系の地域起こし関係者と宮崎で実施。なぜ農業に携わっているのかという根っことつながり、農水省のデジタル政策推進チームの新コンセプトが生まれました。(近藤清太郎:農林水産省大臣官房政策課企画官)

12 セレンディピティ の連続

自分の根っこの想いに気づき地方での時間を増やし、つくば市での働き方改革や宮崎県新富町での新しい学びを実践。コクリ!でのセレンディピティの連続が書籍出版、東京学芸大学大学院教員、東京工業大学アドバイザーなどの挑戦をもたらしてくれました。(小宮山利恵子:スタディサプリ教育AI研究所所長)

コクリ!という土壌の3原則

原則 1

システムの縮図 になる多様性

地域や社会のシステム(構造)の縮図になるように、業種・職種・性別・年代・性格などが多様な場にする(システムの代表者を集める)。普段はワークショップに参加しない、むしろ敬遠している人も誘う。

集まりやすい人だけではなく、影響力の強い人も巻き込む勇気ある声かけが大切。影響力がある人が自己変容した時の、組織・地域・社会などのシステム全体に及ぼす変化はとて大きい。また「全員が対等」の関係づくりのため、肩書きを外し「あだ名」で呼び合う。

原則 2

全体性が発揮 できる生態系

事前4割、当日2割、事後4割という「4:2:4の法則」で場づくりする。例えば初めてコクリ!の場に招待する時は必ず事前に、1対1で2時間ほどその人の根っこにつながる経験を傾聴したり、コクリ!の歴史や願い、参加してほしい理由、参加スタンスを伝える。

それによって当日に「いいこと」ではなく「弱音や不安」が言えて、まるごとの自分(全体性)を発揮できる。また単発の場だけで変化や成果を生もうとせず、自己変容が起きる生態系を長期視点でつくる。

原則 3

参加者の可能性を 本人以上に信じる

主催者自身がエゴを手放し、地球の願いとつながって美しい意図を持ち続ける。弱さも出せるありのままの自分である。恐れを超えて未知に踏み出す。そして参加者の可能性と、この場から奇跡が起こることを誰よりも信じる。

すると安心安全な場となり、恐れや不安、鎧や仮面が溶けて本来のその人が現れる。一人ひとりが自分の使命、地域や社会の痛み・願いとつながり、本領発揮できる。またそれがコミュニティ全体を深い共創状態にいざない、温かなコクリ!文化(土壌)を創る。

コクリ!の仲間たちが新たなプロジェクトや成果を生み出している一方で、コクリ!そのものは課題を設定せず、成果を追わない。一貫して行っているのは、仲間たちが本領発揮できる「土壌づくり」だ。

良い植生環境をつくると自然の力で豊かな農作物が育つという「自然農」の考え方をコミュニティづくりに活かしている。人が介入せずとも自然と関係性が生まれ、土壌が豊かになるほど収穫も豊かになる。

そうしたコクリ!の土壌づくりは3つの原則がある。

予想だにしない未来を創るコ・クリエーションの「3つの流れと12の智慧」

多様なプロフェッショナルやリーダーとの実証実験を経て、コクリ!は一つの仮説を立てた。
 世界にはコ・クリエーションを研究する上で活用できる「12の智慧」があり、
 「3つの流れ」に分類でき、過去バラバラだったその流れは現在影響を与え合い、
 新しい未来を生み出す手法につながっている。
 そして、これらを自分たちの言葉で編集・体系化した映像を「コクリ!系統樹」として発表した。

流れ ①

自己変容

智慧 1

Believe in Your Own Gift

自分の「根っこ」とつながる

自己変容の一步目に欠かせないのが、自己理解。自分はいったい何者なのか？ どんなギフトや個性があるのか？ どうしたら本領発揮できるのか？ これらを知る技術としてコーチングやカウンセリング、ストーリーテリング、エニアグラムなどがある。

すべての人に、この時代に生まれた魂の目的はある。
 私の魂の目的ってなんだろう？

智慧 2

Lead the Self

「周りを変える」から「私が変わる」

周囲を変えるのは長い道のり。でも実は自分が変わるほうがずっと早い。周囲を変えようとするのではなく、自分が変わることによって周囲との関係性が変わり、自然と周囲が変わる。NVCや内観、認知心理学、オープンダイアログなどが自己変容の助けになる。

私が変わることで、
 周囲はどう変わるのだろうか？

智慧 3

Inner Universe

身体の声は可能性の扉

自己変容を目指すとき、思考や言葉が邪魔になることがある。そうしたときにプロセスワークやマインドフルネスなどの手法を使って身体の声に耳を澄ましたり、夢の中の無意識を探求したり、生物や自然や地球と対話することで未知の自分に会えることがある。

私という身体を通して、
 どんな大いなる意図が
 現れようとしているのか？

智慧 4

Wholeness

現実世界とわたしはつながっている

自己変容を追求した先に見えてくるのがホールネス（全体性）。自己変容を重ねていくうちに、部分である自分と全体である世界・宇宙がつながり、一体であることを感じる瞬間がある。それは哲学や数学の世界で言われる「ホロン」「フラクタル」と似ている。

私たちの自己変容は、
 どのように世界に
 影響を与えるのか？

流れ ②

システム／全体

智慧 5

System Thinking

システム的に考えていく

ある問題を解決する方法が、他の大きな問題を引き起こすことがある。あらゆる方法には副作用がある。「風が吹けば桶屋が儲かる」と言われるように世界は複雑につながっている。複雑なものを複雑なまま捉えるときに大きな力となるのが「システム思考」だ。

どうしたらこの世界を
 持続可能なものにできるのだろうか？

智慧 6

Dialogue

根っこでつながり未来をつむごう

システム思考には多様な視点が欠かせない。そして多様な人たち、まったく違う意見を持つ人たちが、膝を突き合わせて語り合うことで、予想だにしない未来が立ち現れてくる。そうした対話（ダイアログ）の技術を世界中のファシリテーターたちが磨いてきた。

一人の天才か？ 集合知か？
 未来を創るのは誰？

智慧 7

Break the Box

恐れを超えて、未知に踏み出そう

対話の場では多様な世界観や信念がぶつかりあう。「我々が今日直面する重要な問題は、その問題を生み出したときと同じ考えの次元では解決できない」というアインシュタインの言葉にあるように、一見噛み合わない主張も、次元を変えれば同じことを言っていたりするもの。枠組みや次元を変える対話の技術としてU理論やナラティブ・アプローチがある。

私たちのどんな世界観が
 今の問題を引き起こしているのだろうか？

智慧 8

System Sensing

自分を巡る大きな環に想いを馳せよう

世界をシステムで捉えようとするときも、智慧3に出てきた身体ワークが有効だ。身体、そして感情やアートを通じてシステムの声を聞くことを「システムセンシング」と言う。考えるのではなく、感じる。すると、人と人、人と社会、人と自然のつながりが見えてくる。

未来のために
 世界や地球の声を聴くことは
 可能だろうか？

流れ ③

クリエーション

智慧 9

Backcasting

未来から遡る

バックキャストとは、未来から見て今なにをすればよいかを考える方法。ありたい未来から逆算して、遡って考える。多様な人たちが集まってオープンに対話するとき、バックキャストは極めて有用だ。

限られた資源で未来を拓くには、
 どのように場をつくり、
 いかに考えていけばよだろうか？

智慧 10

Do the Right Thing

デザインのプロセスを見つける

デザイナーのイノベーション創発法を、デザイナー以外の人たちも使うことはできないだろうか。そうした発想から「デザイン思考」が誕生した。デザイン思考のプロセスと条件を活用すれば、誰もがデザイナーのようにアイデアを生み出せる可能性がある。

デザイナーの優れた着想やプロセスを、
 どうすれば幅広い人が
 活用できるだろうか？

智慧 11

Big Idea

「大きなデザイン」へ

社会課題の解決こそ、デザイン思考が本領発揮するとも言える。まち、教育、医療などの分野で新たな仕組みやサービスを生み出すときにも、デザイナーの発想プロセスが大きな助けになる。

デザイナーの思考や発想を、
 どうすれば社会課題の解決に
 役立てられるだろうか？

智慧 12

Don't Think, Feel.

信じる世界を体現しよう

デザイン思考は、基本的にはテーマを掲げて対話するが、テーマにとらわれて関連する集団や業界の常識をなかなか超えられないことがある。そこでデザイン思考を活用しながらも、テーマを決めずに「ノーアジェンダ」で対話するチャレンジが行われている。

アウトプットや問題解決を
 手放すことで、
 どのようなものが生み出されるだろうか？

「コクリ!系統樹」の映像はこちら！



「この時代、この地球に生まれた私の役割はなんだろう？」
そう問い続けて10年。私にとってコクリ!は奇跡の連続でした。

未知のチャレンジは怖いけど、信頼する仲間がいるから
勇気をもって、えいっと飛び込める。
美しい意図を持ち続けていれば、必ず宇宙が味方して
出会うべき仲間に出会い、道が拓けていく。

自分を変えてくれた体験もたくさんありました。
熊本・阿蘇の美しい草原は1000年間
命の危険を冒しながら野焼きを続けて守り継がれてきた。
3年や5年の計画を立てる東京の企業とは時間感覚が根本的に違う。

阿蘇の黒川温泉で300年続く旅館社長の北里有紀は
長い年月をかけた人の営み、大いなる歴史の流れの上で生きている。
その彼女がふるさとの山が痛んでいく姿を見てこう言ったのです。
「自分の身体がむしばまれているようで、心が痛む」
この言葉に、私は雷に打たれたような衝撃を受けました。

自然が自分ごとなんて、感じたことがなかった。
自然も人も仕事も全てつながっているという彼女の感覚。
私はなんて分断された思考で生きてきたんだろう。

普段出会わない多様な人と深く根っこでつながることで世界が広がり
感覚が深まり、自分もコクリ!も変化していきました。
試行錯誤を繰り返し、うまくいかずにたくさん悩みました。
心震える感動が何度もあり、たくさん泣きました。

10年分の想いが詰まったコクリ!の智慧を分かち合いたい。
私たちが体験したような数々のコ・クリエーションの奇跡が
日本中、世界中で起きるように。そんな願いを込めてこの本をつくりました。
あなたの大切な仲間と一緒に読んでもらえたら嬉しいです。

私自身も変容し、次の10年を賭けるテーマが見えてきました。
それは「地球中心・生態系全体のコ・クリエーション」。
自他非分離の感覚を人間だけでなく、植物や動物や自然など
生態系全体に広げ、研究を発展させていきます。

自分の使命を仲間と生き切ったとき、奇跡が起きると信じています。
あなた自身のギフトが最大限に光輝く人生を。
心からの愛と応援をこめて。

三田愛

『コクリ!百色絵巻』

製作チーム：相川千絵、太田直樹、岡部有美子、嘉村賢州、
三田愛、鈴木宙夢、玉有朋子、土肥梨恵子、丹羽妙、
Matthew Palmer、山崎蘭加、山下智也、米川青馬
スポンサー：株式会社リクルートライフスタイル ジャらんリサーチセンター
デザイン：NOSIGNER（太刀川英輔、青山希望、永尾仁）
印刷：大川印刷
（ZERO CO₂ PRINT 再生可能エネルギー100%で印刷しています）



- HP: cocree.org
- Facebook: facebook.com/cocreeJP/
- Twitter: @cocreeJP

コクリ!
メルマガの
登録は
こちらから



本書PDFの
ダウンロードは
こちらから

